

1. 万博工事期間中の交通影響等について ～前回（R6.2時点）から見直し・更新～

1-1 万博工事期間中の交通影響検討【資料3】

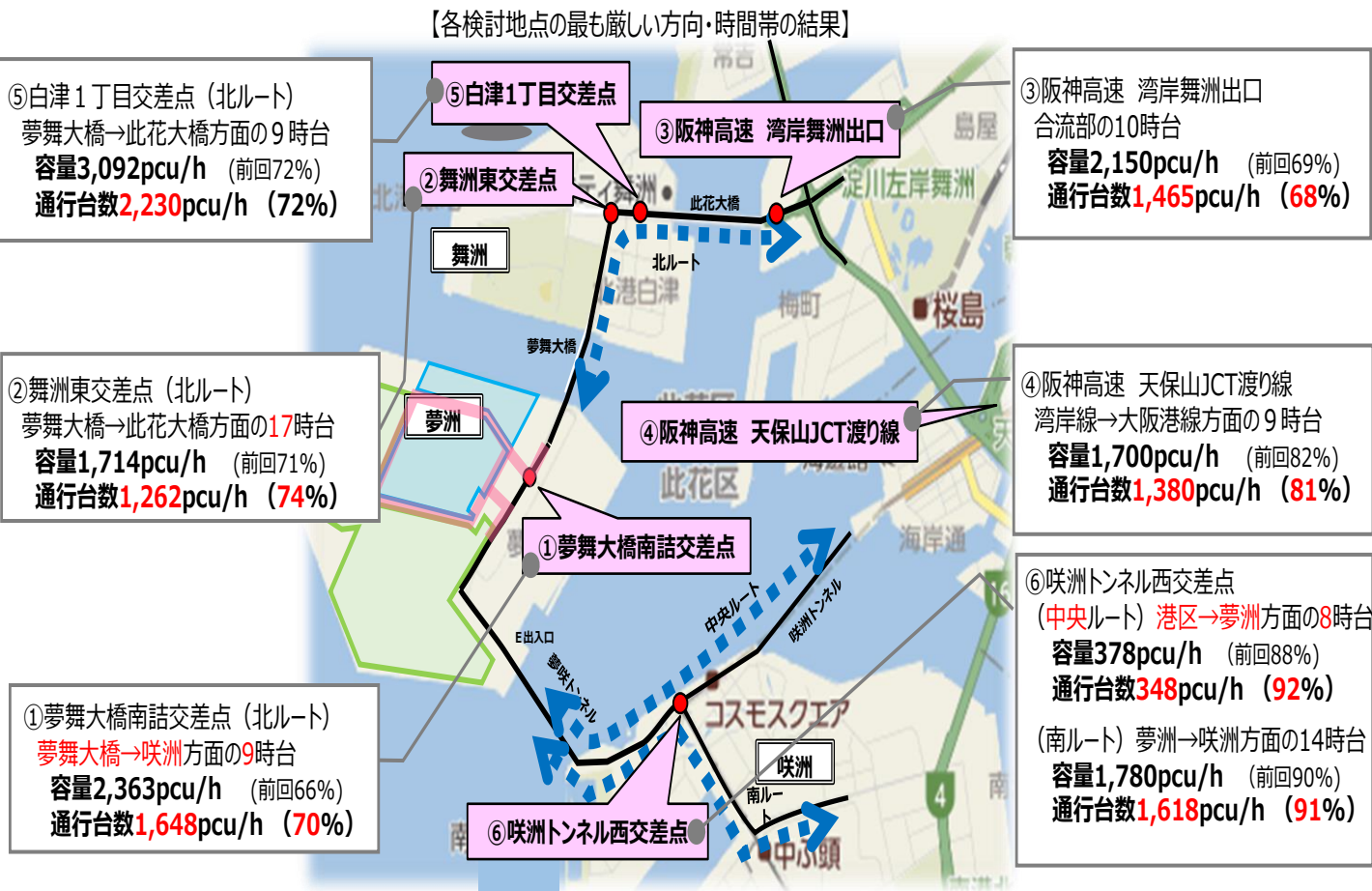
- タイプAの進捗に合わせて、**交通量予測を見直し**。
- **万博のスタッフ車両と物販車両を考慮**。
- 夢洲周辺の各ボトルネック交差点での**交通量は若干増減し、全ての地点で交通容量内に収まっている**（容量に対する割合は約**68～92%**）。

○今回見直した前提条件

- ・万博工事のタイプAについて、既に着手及び着手の予定が明確になったパビリオンは、その着手時期とし、それ以外はR6年**6月**着手と想定（全工事車両のピーク日台数はR6年10月の3,368台/日→**3,229台/日に減**）。
- ・万博のスタッフ車両と物販車両を考慮（スタッフ車両は600台/日、物販車両は253台/日）。
- ・IR工事車両台数の精査（R6年10月が726台/日→**755台/日**）

※インフラ工事車両、一般交通（物流含む）は前回と同様。

○影響検討結果のまとめ



1-2 万博会場周辺の交通課題と対応案【資料4】

- **万博会場工事の推進に向け、更なるバックヤードの確保。（0.2ha→2.45ha）**
- **夢洲北高架橋の完成時期の更なる前倒し。**（R6年8月から工事車両の通行に活用）
- 引き続き、工事の進捗に応じて状況をきめ細かく確認し、柔軟に対応。

○対応箇所図



※ 今後の調整状況により、変更となる場合がある。

○対応スケジュール

		令和6年												令和7年			
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
工事車両対策	①車両出入口	3か所	4か所			7か所		8か所		7か所	8か所						
	②観光外周道路での待機場所					観光外周道路の活用（約1,500m）※概ね150台分					観光外周道路の活用（約2,000m）※概ね200台分						
	③建設作業員の駐車場等	0台	300台			500台		1000台									
	④バックヤードの確保	0.05ha（駅前広場）					2.05ha（IR用地2.0ha追加）			2.25ha（駅前広場0.2ha追加）				2.45ha（駅前広場0.2ha追加）			
物流対策	⑤待機場所の整備	520台		540台								670台					
	⑥ゲート時間延長							実施（物流車両や工事車両の多い時期を対象）									
	⑦ゲート増設	増設工事		システム導入・設備類整備											運用		
	⑧CONPAS	準備		本格運用													
⑨夢洲北高架橋の前倒し		高架橋整備						9月末⇒7月末完成に前倒し		8月より		工事車両車両への通行を活用					

※ 万博関係者の通勤車両の削減等に寄与するよう、Osaka Metro中央線の夢洲駅までの鉄道運行を万博開幕の2か月以上前の令和7年1月末に開業できるよう取り組む

2. 万博開催期間中の交通影響等について ～前回（R6.2時点）から見直し・更新～

2-1 万博開催期間中の交通影響検討【資料5】

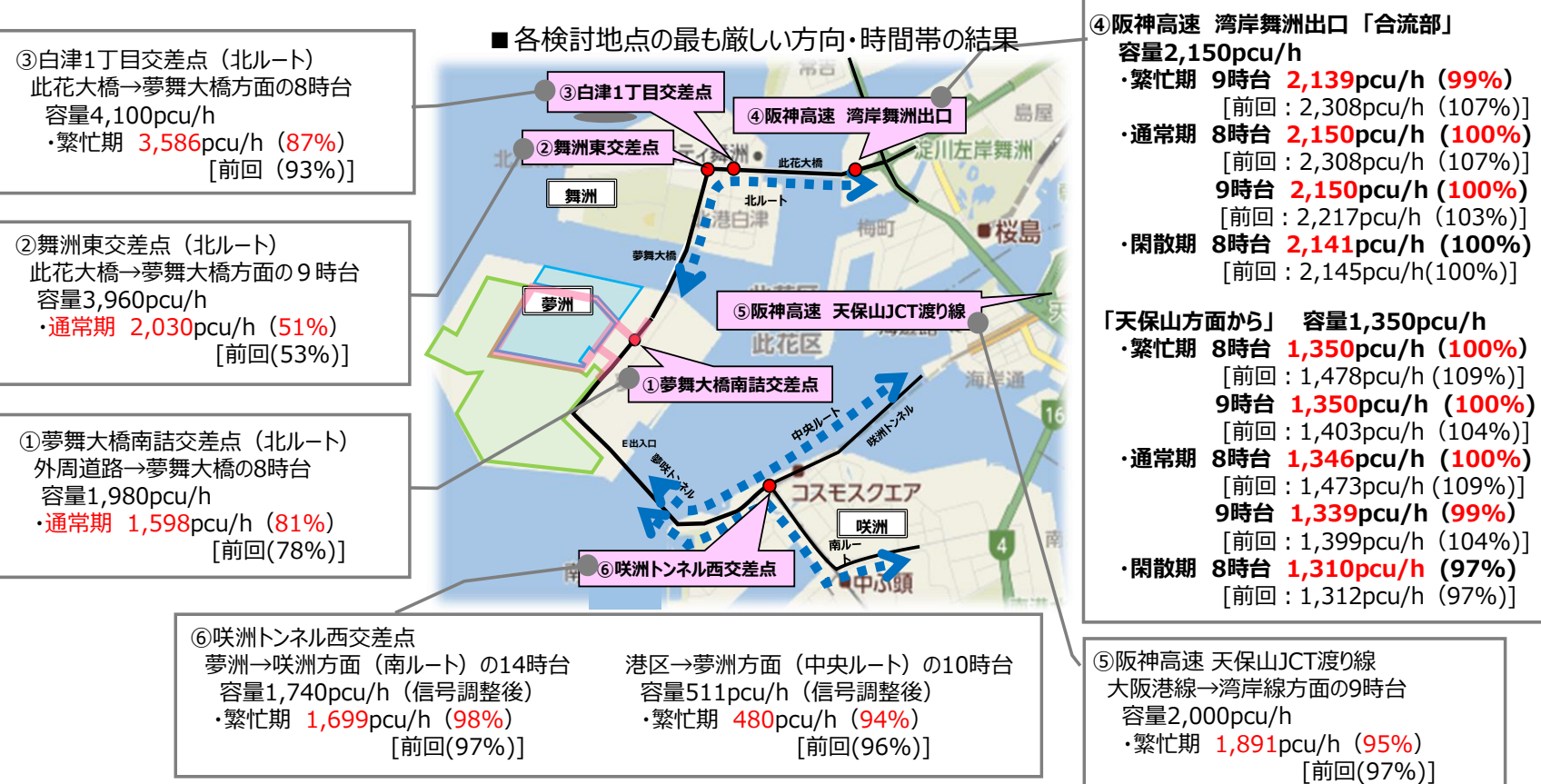
- 万博・IR・物流とも、全てのピーク台数の予測値を合算し、厳しい条件のもと影響検討を実施。
- IR工事車両の調整、および万博来場者車両の予約枠のコントロールにより、前回8時、9時、10時台で容量を超過していた阪神高速湾岸舞洲出口を含め、容量内に収まった。

○前提条件

※1:2024年7月19日公表予定

- 万博車両：日ピーク来場者（22.7万人）における台数（来場者輸送具体方針 第4版※1より）
※交通影響が想定される地点は、万博の「通常期」「閑散期」のピーク日（20.4万人、13.6万人）も合わせてチェック
※舞洲駐車場の利用を団体バスの駐車台数に応じて、団体バスの最小・最大の2ケースを検討
※万博開催中の物販車両は、夜間の時間帯に搬入。ボランティアの通勤は鉄道を利用。
- I R車両：万博開催期間のうち最大となる令和7年10月時点の車両台数（2,182台/日→**2,088台/日**）
- 物流車両：2025年までの伸び率を考慮した約11,200台/日（ピーク週の平日平均）、咲洲シフト（空コンテナシフト、本船シフト）は考慮しない
- 一般車両：2021年10月の博覧会協会調査の交通量調査結果を反映

○影響検討結果のまとめ



※ 万博来場者車両の予約枠のコントロールは、繁忙期のケース1・ケース2、通常期のケース1で実施。

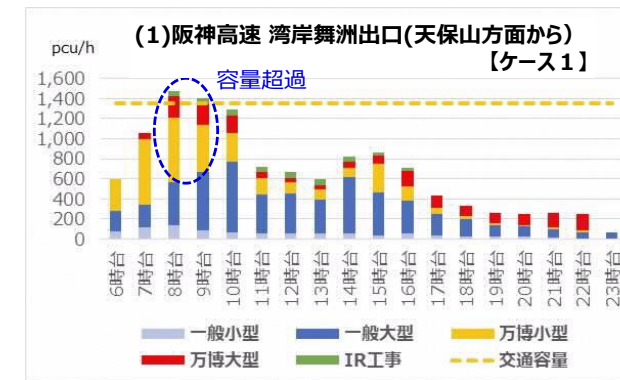
2-2 交通影響検討結果を踏まえた交通容量超過箇所への基本的な対応

【資料5】

- 前回の交通影響検討で、繁忙期・通常期の8時・9時・10時台で容量を超過した阪神高速湾岸舞洲出口において、容量内に収まるよう、以下の対策を実施。
- IR工事車両の台数削減と他の高速出口の利用による調整
- 万博来場者車両の時間帯ごとの予約枠のコントロールによる調整

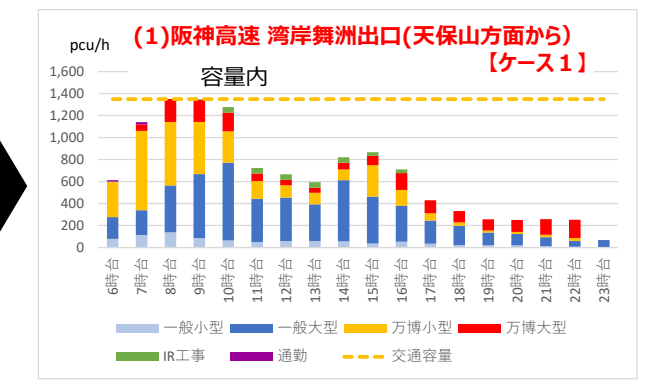
④阪神高速 湾岸舞洲出口【天保山方面から】（繁忙期）の事例

前回（R6.2時点）



今回

IR工事車両と万博来場者車両を調整し、容量内に。



2-3 円滑な交通確保に向けた追加的な対応（案）【資料5】

- 今回の交通影響の推計は、来場者・IR工事・物流全てのピーク台数の予測値を合算し、厳しい条件で行っており、このような状況が懸念される時間帯等は限定的と考えられる。
- しかしながら、実際の交通量には一定の変動（一般交通等）が想定されることから、不測の事態に備え、博覧会協会が今後設置を予定している「来場者輸送情報センター（仮称）」と十分に連携を取り、実際の交通情報を収集・共有のうえ、交通影響が想定される場所と時間を特定し、関係者間で調整して、交通影響の最小化を図るよう、物流車両、IR工事車両、一般交通などに対して、市として必要となる追加的な対策を検討・実施する。